

令和2年度 さいたま市立片柳小学校 学校運営協議会による評価書

さいたま市立片柳小学校
学校運営協議会
会長氏名 佐藤 誠 ㊟

学校運営協議会による評価（協議会の委員の意見等）

（1）学習面

- ・今年度は、国の学力・学習状況調査や市の学習状況調査が実施されなかったため客観的な評価が難しいが、年間で学ぶべき学習内容についてはほぼ達成されたようなので安心している。
- ・スタディ・エッセンスの利用については、工夫・改善の余地があるように感じる。
- ・保護者・児童アンケートの「読書」関連の項目の数値が昨年度より低くなっていたのが気になった。

（2）生活面

- ・児童は、学校内でのあいさつはできているようだが、地域の方へのあいさつは不十分だと感じる。
- ・「学校の新しい生活様式」のもと、集会活動等はリモートで行うことも一つの方法ではあるが、分散して密集を防ぎながら「対面型」での実施が、小学生の発達段階ではより適していると感じる。

（3）教職員について

- ・臨時休校期間での担任から児童への電話連絡がしっかり実施された。担任にとっても児童や保護者にとってもよい効果があったと思う。
- ・「個別最適化された学びと協働的な学び」の実現に向け、校内の指導力の強化の面（研修の推進、教科の専門性の向上）から、授業（ICTの活用＋対面）の質の向上を図っていく必要がある。

（4）その他

- ・交流の機会が減った年ではあったが、学校の活動や取組はよく見えた。よく工夫・改善に努めていたように思う。
- ・学校としての取組や方針について、家庭や地域に十分認知されているとは言えない。もっと学校からのアピールが必要。
- ・2件の大きな工事が事故なく完了してよかった。

学校運営協議会による評価を受けた学校の対応

- 児童一人に一台タブレットPCが配備されるため、授業での活用方法について研修の機会を確保し、教員の指導力を向上させていく。あわせて、家庭学習でも早期に活用できるようにしていく。
- 今年度、コロナの影響で中止したが、夏季休業中の「学習教室(仮称)」を実施し、児童の学習習慣の確立や不得意意識の払拭を図っていく。
- 朝読書の時間の見直し、授業での図書室の活用、図書館司書や図書ボランティアと連携しての読書活動の活性化等を行い、児童の本を読む習慣づけを一層図っていく。
- 地域の特徴について学ぶ学習を様々な学年で行い、また地域の施設へ出掛けての交流を図る活動を年間行事として位置づけることで、地域行事等に積極的に参加する児童を育成していく。

校長氏名 萩原 哲哉 ㊟